

「平成20年版 パートタイマー白書」刊行にあたって

平素は弊社求人広告事業ならびに当研究所の情報サービス事業にご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。アイデム人と仕事研究所は、「人と企業のトータルコミュニケーション」をメインテーマに「雇用する企業」と「働く人々」の双方の立場に立脚し、人材総合企業アイデムで培ってきた独自の着眼点で事業展開をしています。その事業の一環として平成10年から刊行しているこのパートタイマー白書は平成20年版で11年目を迎えました。これまでは、「人材の確保」、「責任感とプロ意識」、「働きやすい職場環境」、「主婦パートの活用」、「認めとやる気」などをテーマに調査、発表してまいりましたが、今年は「人材の定着」に焦点をあて企業と個人にアンケートをとった結果をまとめました。

厚生労働省の「職業安定業務統計」によると平成19年12月のパート新規求人倍率(実数)は2.63となっており、労働市場の需給バランスは売り手市場の状態が続いています。企業にとってはパートタイマーの採用が思うようにならない状況が続いているわけです。さらに本年4月からは改正パート労働法が施行され、今後企業のパート雇用が大きく変容することが予想されます。

そこで「雇用、処遇、確保、定着」をテーマにアンケートをとり、その結果から「パートタイマーの定着」についてまとめました。本年度も多くのご担当者、また多くのパート・アルバイトとして就業されている方々から多様なご意見をお聞きすることができました。

アンケートには自由記入欄を設けていますが、毎年興味深い内容をお書きいただいております。本年も「効果を上げている定着の施策」をはじめ、「職場での人間関係」、「応募効果を高める工夫」、「正社員とパートタイマーの違い」などに関する企業のご担当者、パート・アルバイトとして働いている方双方からの現場感覚の高い言及を数多くいただきました。これら現場からの貴重なご意見を、集計結果とは別に、自由意見として掲載させていただきました。パートタイマーの戦力化のためのヒントとしていただければ幸甚です。

発刊にあたりご協力いただいた関係各位に、スタッフ一同心から感謝申し上げます。

平成20年4月
株式会社アイデム
人と仕事研究所
所長 吉野 秀一

はじめに

非正規雇用の労働者の割合が年々増加しています。

総務省統計局の労働力調査によると、平成19年の非正規の職員・従業員は1,732万人となり前年と比べ55万人の増加となりました。雇用者に占める非正規の職員・従業員の割合は年平均で33.5%となり、3人に1人が非正規雇用となっています。とりわけパート・アルバイトは、非正規雇用者1,732万人中1,164万人と最も大きな割合を占めており、パート・アルバイト雇用の需要の高さが窺えます(表1参照)。

かたや、パートタイム労働者の新規求職申込件数は、平成元年以来増加を続けてきましたが、平成19年には18年ぶりに減少に転じました。今後、少子高齢化による労働力不足が懸念され、限られたパイの中での人材の確保がますます困難となっていくことが予想されます(表2参照)。

このように現在パート・アルバイトの採用難が続いていますが、仮に採用できても「すぐに辞めてしまう」という嘆きもあちらこちらで耳にします。そんな環境にあって大切なのは、せつかく採用したパート・アルバイトを辞めさせない工夫です。

パート・アルバイトとして働く中で「どんなときに辞めよう」と思うかと聞いた結果では、「職場の人間関係が良くないとき(45.5%)」が最も多く、次いで「仕事内容に比べ賃金が割に合わないとき(36.9%)」、「頑張っても何の評価もされないとき(33.7%)」、「納得のいかない理由で上司に叱責されたとき(29.0%)」、「何年働いても賃金が上がらないとき(28.6%)」の順になっています(図1参照)。職場の人間関係が良くなければ、半数近くのパート・アルバイトは辞めてしまう可能性があるのです。

パート・アルバイトの雇用が増え、従業員に占めるパート・アルバイトの割合が高まるほど、パート・アルバイトを戦力化することが重要になってきます。戦力化をするためには、自社に合った人材を採用し定着させて、力を発揮してもらわなければなりません。

そこで今回の白書では、昨年の「人材の確保」に引き続き戦力化を図るために欠かせない「パート・アルバイトの人材を定着させる」という視点で、企業とパート・アルバイトの双方に対してアンケートを実施しました。その回答を比較し、意識のズレなどを明らかにするねらいから、双方の回答を並記しています。さらにアンケートで寄せられた多数の企業担当者やパート・アルバイトの声を盛り込んで構成しています。

『平成20年版パートタイマー白書』から、採用難時代におけるパート・アルバイトの人材の定着へのヒントをつかんでいただければ幸いです。

人と仕事研究所
主任研究員 小杉 雅和

表1 雇用形態別にみた雇用者の内訳及び非正規社員の職員・従業員の割合の推移

		平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
男女計	就業者	6,304	6,316	6,343	6,369	6,403
	雇用者	5,343	5,372	5,407	5,481	5,561
	雇用者（役員を除く）	4,948	4,975	5,007	5,088	5,174
	正規の職員・従業員	3,444	3,410	3,374	3,411	3,441
	非正規の職員・従業員	1,504	1,564	1,633	1,677	1,732
	パート・アルバイト	1,089	1,096	1,120	1,125	1,164
	労働者派遣事業所の派遣社員	50	85	106	128	133
	契約社員・嘱託	236	255	278	283	298
	その他	129	128	129	141	137
	非正規の職員・従業員の割合（%）	30.4	31.4	32.6	33.0	33.5

資料出所：総務省「労働力調査詳細集計（速報）」より抜粋

（万人）

表2 パートタイム労働者の新規求人、求職、求人倍率の推移

	平成13年計	平成14年計	平成15年計	平成16年計	平成17年計	平成18年計	平成19年計
新規求人件数	2,315,886	2,433,262	2,669,884	2,917,239	3,125,556	3,284,676	3,138,857
新規求職申込み件数	1,092,360	1,255,555	1,272,398	1,475,030	1,590,887	1,581,415	1,541,254
新規求人倍率	2.12	1.94	2.10	1.98	1.96	2.08	2.04

資料出所：厚生労働省「職業安定業務統計」より抜粋

図1 「どんなときに辞めよう」と思うか（複数回答）

